

平成30年3月13日

那須烏山市議会議長 渡辺 健 寿 様

総務企画常任委員会委員長 沼田 邦彦

予算審査結果報告書

本委員会に平成30年3月6日に付託された事件は、審査の結果、次のとおり決定したので、那須烏山市議会会議規則（平成17年10月那須烏山市議会規則第1号）第109条の規定により報告します。

1 審査期日

平成30年3月7日（水）及び8日（木）

2 審査場所

那須烏山市役所 南那須庁舎 第一委員会室

3 出席委員

沼田邦彦、滝口貴史、相馬正典、佐藤昇市、中山五男

4 説明のための出席者

会計管理者兼会計課長 滝田勝幸、総合政策課長 両方裕、まちづくり課長 佐藤博樹、総務課長 福田守、税務課長 水上和明、議会事務局長 水沼透 他関係職員

5 審査事項

本委員会の所管する総合政策課、まちづくり課、総務課、税務課、会計課、議会事務局、監査委員、選挙管理委員会及び固定資産評価審査委員会の平成30年度那須烏山市の一般会計及び特別会計歳入歳出予算

6 審査結果

本委員会が付託を受けた一般会計及び特別会計の予算については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。ただし、次のことについて要望し、意見を付することとします。

総合政策課

- ・自主財源比率が県内下位に低迷している状況であるが、適正な財政規模を見極めた上

で、歳出の削減に努める一方、歳入の確保についても知恵を出し、改善を図られたい。

- ・ふるさと応援寄附金の強化は自主財源確保の一方策であるが、それだけに留めず、体験型の返礼品を充実させることで交流人口の拡大にも繋げられたい。
- ・パブリックコメントは市民から直接意見を聴くための有効な手段であり、市の重要な政策等の方向性を決める際には、積極的な活用が求められる。このことを十分に認識し、市民から多くの意見が出される努力と工夫をされたい。

まちづくり課

- ・地域おこし協力隊については、3年の任期の半分が終了しようとしているが未だ具体的な起業の道筋は見えてきていないようである。任期末までの起業に向け、引き続き丁寧な支援・指導を行われたい。また、新たに2名を募集するとのことであるが、本市の課題解決に直接結びつく技能・知識を有する人物の採用を要望する。
- ・市職員の出張にJR烏山線の利用を促す新規事業については、市の烏山線を重要視する姿勢を外部にアピールするために有効な手段であると評価する。大切な地域資源である烏山線の利便性向上や存続のための抜本的な方策を見つけるのは難しいが、これらの地道な事業や市民への啓発、JRへの要望活動などを積み重ねられたい。
- ・平成30年2月に庁内プロジェクトチームが最終報告した道の駅について、新年度も引き続き調査のための予算が計上される。道の駅整備は、多くの財政支出が伴うが、市の活性化には有効な手段の一つである。報告書にあるとおり、市民の声を吸い上げ、気運の高まりがあることが確認できれば次の段階に進めるよう、効果的な調査研究を行われたい。

総務課

- ・事務分担が不明確で、複数の課で同一事業に取り組むため業務内容が重複しているように見受けられる例がある。また、人口減少の中、職員数の削減が必要な状況を踏まえ、組織の再編は避けられない。平成30年度中に十分に議論を行い、効果的かつ効率的に機能を発揮できる新たな組織機構を構築されたい。

税務課

- ・過去の固定資産税の大口滞納などもあり、県下ワーストに甘んじている徴収率であるが、近年の地道な取り組みにより現年度分は県内でも上位にあるとのことである。引き続き法に則り適切に徴収・処分を行い、徴収率が向上するよう努められたい。
- ・市ホームページにおける税情報の掲載が不十分である。先進地を十分研究し、市民に分かりやすく活用しやすい内容に改められたい。